

埼玉県納税貯蓄組合総連合会 優秀賞

税によって受けられる平等な教育

黒須中学校 二年 橋本 真妃奈

私は毎日、当たり前のように学校へ行っています。学校では配布された教材を使って授業を受け、施設や設備を使うことができます。中学生の私には一年間になんと百九万円程の税金が教育費として支給されているそうです。こんなにも私に税金が使われていると知って驚きました。そこで、教育に使われている税金は一体どこからきているのか気になって調べてみたところ、国、都道府県、市町村が分担して学校に支給するという仕組みがあることがわかりました。私は市内にある学校は市内の税金でまかなわれ、足りない分を都道府県が負担しているのではないかと思っていました。しかし、国からも学校へ教育費という税金が支給されているのです。実際に国は教科書の費用を全額負担していて、都道府県は教師の給料を国と分担して支給し、市町村は校舎の修理にかかる費用や学校で使う器具などの費用を負担しているそうです。何をどこが負担するのか細かく決められていることを知り、もっと教育費に使われている税金について興味が湧いてきました。

そうになると、なぜ国、都道府県、市町村に分かれて学校に税金を支給しているのかという疑問も出てきます。私が思っていたように学校の費用はその地域の税金でまかない、足りない分を都道府県が負担するということでは成り立たないのでしょうか。そう思い、国

も負担している教師の給料を参考に調べてみました。すると、市町村の中には税金の多い地域と少ない地域があり、税金が足りないという理由で必要な先生が確保できないことがないよう国と都道府県が支給しているのだと記載されていました。私はこれを読んで分担して支給している理由に「なるほど」と納得しました。つまり税金の格差が原因で私たちに必要な教育が受けられないことがないように、国、都道府県、市町村で分担して負担しているのだと私は思います。日本全国のどの地域にいても学校に行く全ての人たちのために教育が平等に受けられるように作られた仕組みに感心してしまいます。

私は今まで、学校へ行き教育を受けることは当たり前のことだと思っていました。しかし、その当たり前前はことは実は税金のおかげであって、その仕組みがあるからこそできることだと知りました。そして一つ一つの学校へきちんと税金が支給されているということ、これからの日本の未来を担っていく私たちに教育を通して希望をもって生きてほしいというメッセージだとも受け取れます。私はその期待に応えるためにもきちんと学校へ行き、感謝して教育を受けようと思いました。